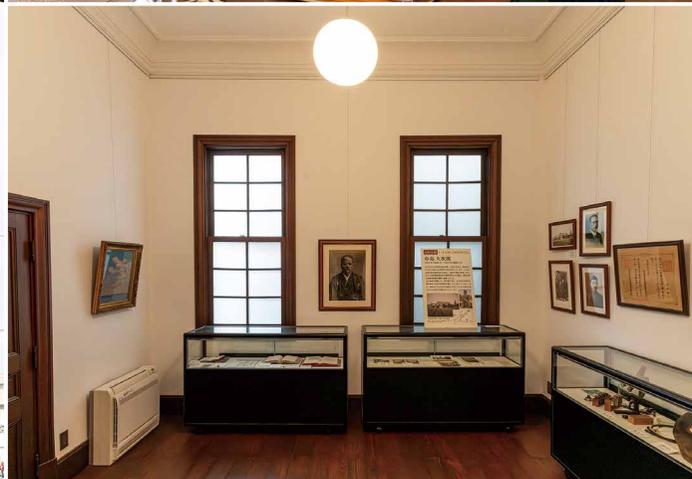


岡山県津山市 城西まちづくり協議会

歴史と文化を
大切に
住民主体のまちづくり







岡山県北部の城下町、津山市を訪れる。津山出身のロックシンガー・稲葉浩志さんのパネルが目を引く津山駅前を起点に、吉井川を越えて商店街を歩くと、ホルモンうどんの店やレトロな看板など、歩いて楽しい街並みにカメラを向けながら、津山市城西地区に到着する。

津山市城西地区は、出雲街道沿いに並んだ町家や、明治・大正期の洋風建築、寺院が集積する歴史的なまち並みがあり、令和2年に重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。一方で、少子高齢化や空き家の増加など課題も抱えるなか、平成23年に城西まちづくり協議会(以下、協議会)が立ち上がり、住民主体のまちづくりが進められている。

取材に訪れた12月下旬、毎週土曜日に小学生を対象に学習支援と体験活動を行う「まちばの寺子屋」が開かれ、正月のお飾りづくりが行われた。寺子屋の運営を担う協議会事務局の牧原裕子さんから紹介があり、講師の寺谷守男さんから「地域ごとに様々な種類がある昔からのお飾りの文化を、子どもたちに受け継いでもらえたら」とあいさつ。藁は、穂が出る前に寺谷さんが刈り取り、夏の暑い日に干し、半年近く保存して準備したものだ。子どもたちは、寺谷さんや寺子屋スタッフ、高校生・大学生のボランティアとマンツーマンで教わりながら藁を編んでいく。

寺子屋のボランティアとして活躍する美作大学4年生の木村莉緒さんは、大学のボランティアセンターの代表を務め、先輩から引き継いで城西地区のボランティア活動を続けてきた。「この場で子どもとの接し方を学び、関係が深まり、自分自身が成長できたと感じている。学生生活を振り返ると城西地区に育てられた思いがある」と、木村さんは充実した学生生活を振り返る。

続いて、観光ボランティアガイドの福田幸夫さんの案内で城西地区を歩いた。寺町の壮観な景観は「西から来る毛利軍を防ぐため、津山城の西側にお寺を並べた」と福田さん。初代津



山藩主の森忠政公が江戸時代初期に吉井川の流れを変え、一から設計した城下町の構造が今でも随所に残る。明治時代になると、鉄道の開通を期に津山市の玄関口となった城西地区は繁栄し、街道沿いには、軒や壁を切り道路空間を広げる「軒切り」を実施した町家や、レンガ舗装が特徴的な「翁橋」など見どころが尽きない。ガイドの福田さんは、退職後に民生委員になってから協議会の活動に関わるようになった。こだわりの漬物づくりも始めたところ評判になり、城西地区の各所で販売するようになったそう。

まち歩きのと、協議会の活動拠点でもある城西浪漫館を訪れる。大正6年に病院として建てられ、大正ロマン漂う重厚な建築だ。この日は2階のギャラリーでクリスマスコンサートが開かれ、古いオルガンの音色と歌声に館内が聖なる雰囲気になる。1階のカフェでは、「珈琲」の漢字を考案した、江戸時代の蘭学者で津山藩医の宇田川榕菴にちなんだ「榕菴コーヒー」をいただき、午後の陽だまりを感じながら一服する。

城西まちづくり協議会の立ち上げの背景には、平成8年から続いていた「津山城西まるごと博物館フェア」の存在があったと、協議会事務局長の佐々木裕子さんは振り返る。当初は行政主導で始まったイベントから、城西公民館の開設をきっかけに住民主体の運営へと移行し、地域の多様な団体が関わるイベントへと広がった。しかし、「年一回のイベントだけではまちは変わらない」という問題意識が生まれ、住み慣れたまちで暮らし続けていくために地域課題に取り組みむ団体として、平成23年の協議会設立へとつながっていった。

協議会の活動は「まちづくり」「福祉」「防災防犯」の3つの部会で構成され、町内会や地域福祉団体や消防団、行政や教育施設などと連携を図りながら活動する。「まちづくり」は、歴史的建造物や景観の保存と活用に取り組み。「福祉」は、寺子屋や子育てサロン、生活支援など、日常の暮らしを支える



活動を展開する。その一つ「お助け隊」では、庭の草取りやゴミ出し、家電の設置など、介護保険制度ではカバーできない困りごとを、有償ボランティアが支える仕組みで、町内会長や民生委員と連携しながら運営する。「防災防犯」では、地区防災訓練や防災マップ作成、防犯活動などを実施する。

城西の魅力を伝える取り組みとして、寺院と連携した「おかげめぐり」も重要な役割を果たしている。令和3年に、若手僧侶による「城西若僧会」が結成され、僧侶の案内で寺社を巡りながら抹茶・写経写仏・座禅瞑想をする「先達といく おかげめぐり」は、城西の文化に触れる人気のツアーとなっている。

城西地区を象徴する2つの建築「作州民芸館」と「城西浪漫館」はどちらも住民や観光客が気軽に立ち寄る「まちの駅」として協議会が一体的に運営し、地域活動との連携を図っている。民芸館は地域住民が集う「溜まり場」のような場、浪漫館は観光客を迎える喫茶・交流の場として機能する。カフェのメニューは住民が考案するなど、地域主体の運営が続けられている。

今後の課題として佐々木さんは、空き家の活用を挙げる。補助金を活用した改修が進められ、店舗や宿泊施設への活用も計画されている。城西地区に残る歴史的建造物を活かしながら「本物が残っているまち」としての魅力を高め、共感する方に移住したいと思われるような街づくりをしたい。訪れる人が楽しめるまちにしていきたい。と佐々木さんはこれからの城西に期待を込める。

城西まちづくり協議会の活動は、城西にある本物に触れた一人一人が活躍できる場を作り、人を育てる営みなのかもしれない。菓を編む子どもたち、本物に触れた経験は城西の歴史を未来につなぐ力になっていくことと思う。

【連絡先】城西まちづくり協議会
岡山県津山市町田122城西浪漫館
TEL：0868-22-8688
メール：j-machi@mx1.tvt.ne.jp